（開元）九年四月、胡賊康待賓率衆叛、據長泉縣、自稱葉護、攻陷蘭池等六州、詔王晙率兵討之、仍令說相知經略、時叛胡與黨項連結、攻銀城、連谷以據倉糧、說統馬步萬人、出合河關、掩擊大破之、……明年……時有康待賓餘黨慶州方渠降胡康願子、自立爲可汗、擧兵叛、……說進兵擊擒之、幷獲其家族於木盤山、送都斬之、其黨悉平、獲男女三千餘人、於是移河曲六州殘胡五萬餘口、配許汝唐鄧仙豫等州、始空河南朔方千里之地

と見える。さて此の康待賓といふのは、舊唐書玄宗本紀（開元九年四月之條）には「蘭池州叛胡顯首、僞葉護康待賓云々」と記し、新唐書同本紀には蘭池胡康待賓、舊唐書郭知運傳には六州胡康待賓といふて居る事から考へると、蘭池都督府の下に括せられた六胡州中の顯首であつたものである。六胡州といふのは、舊唐書地理志に「調露元年、又置魯靈塞含依契等六州、總爲六胡州」とあるもので、而してこの六胡州の胡といふのは、突厥の降人を稱したものであることは言ふ迄もない。新唐書地理志にも「調露元年、於靈夏南境、以降突厥置魯州靈州含州塞州依州契州、以唐人爲刺史、謂之六胡州」と記されてある。さうして之が蘭池都督府によりて括せらるゝ事に成つたのは、神龍三年からである。（新唐書地理志）。元來此の地方は突厥の盛時にはその所領であつたこと勿論で、貞觀四年頡利が降つて、初めて唐に歸することになつたものであるが、調露元年以前にも突厥の降人を此の地方に置いたもので、既に咸亨中、「突厥諸部來降附者多、處之豐勝靈夏朔代等六州、謂之降戸」（舊唐書突厥傳）と記され、新唐書突厥傳には之を河曲六州降人と稱したと見えるし、また開元四年突厥の可汗默啜が殺された時に、部下の酋長の塞に欵りて投降するもの多かつたが、唐は之を河曲の地に置いたことは、舊唐書王晙傳にも見える。されば此の六胡州の叛亂は、實に唐に降つた突厥部族の叛いたものであるが、然も其の首領たりしものは康姓の人待賓であり、更に其の餘燼としての叛亂も、